

# ダンヒルのパイプ

芹沢恵子

この春、新型コロナウイルス蔓延のさなか、私は定期購読をしている『銀座百点』三月号を手を取っていた。その中に毎号「百点对談」が掲載されているが、今回はその対談の一部に、私にとってコロナウイルスを吹き飛ばすような一節があった。それはかつて、ロンドンにおける忘れ得ぬ或るシーンを思い起こさせてくれたのである。話し手は、矢作俊彦（小説家）と山田五郎（美術評論家）のお二人である。対談の一部は次のような内容であった。

矢作俊彦 「・・・ロンドンに行っただんです。二十年間着ていたアクアスキュータムのトレンチコートを新調しようとする・・・」

山田五郎 「・・・イギリスも変わりましたからね。トレンチコートはタイトになり、ダンヒルのパイプ売り場は小さくなり、元が煙草屋だったことを覚えている人も少なくなりました。」

一九七六年春、私たちはヨーロッパを二カ月かけて旅行中だった。当時主人は、パイプを愛用していたので、イギリスに行ったらぜひ、ロンドンのダンヒル本店でパイプを買い求めたいと思っていた。

或る日、念願かなってダンヒル本店に出向き、緊張して重厚なドアを押した。店内は少し薄暗く、奥に細長い部屋であった。左側に黒光りした幅広いカウンターと壁面全体に引出しがしつらえ、いかにも英国紳士といったお人がひとり迎え入れてくれた。店内には喫煙具などは何も陳列されておらず、パイプを購入したいと思ってやって来た私たちはとまどいを覚えた。

主人は、緊張した面持ちで「ティピカル（typical / 典型的）なパイプが欲しいのですが、」と伝えると、その紳士は、笑みを浮かべて、「トラディショナル（traditional / 伝統的）と言って下さい。」とおもむろに訂正してきた。このような場合には、「トラディショナル」という単語を使うべきなのかと私は思わず紳士の顔を見つめた。

主人は、トラディショナルパイプをと云い直したが、考古学を専門とする主人にとって「ティピカル」という形容詞は典型的という意味で日常に使ってなじんでいた単語である。ティピカル ポイント ティピカル フレイク ティピカル ストーンツール 典型的な尖頭器、典型的な剥片、典型的な石器、という風に。しかし、イギリスはロンドン、ダンヒル本店のパイプは「伝統的（トラディショナル）」という言葉がふさわしいのだと思ひ知った。

わが国の接客とちがって店の紳士は、一点ずつパイプを背後の引出しから取り出しラシャの布に丁寧に置いて見せてくれる。見終わると引出しへうやうやしく戻し、またあらためて別のパイプをラシャにそっと置いてくれる。その繰り返しだったのでくらべようもなかったが、それでも一点、一文字のシンプルなパイプを気に入る、買い求めることが出来た。二人とも、どっと疲れて本店を後にしたことは言うまでもない。

今、思い出のパイプは私の手許に残っているが、ダンヒル本店における、少し重く嬉しい会話をきのうのこのように思い起こさせてくれる、トラディショナルパイプである。

(注) 『銀座百点』三月号(第七八四号) 二〇二〇年三月 銀座百点会発行